

平成29年生駒市教育委員会第6回定例会会議録

1 日 時 平成29年6月26日(月) 午前9時31分～午前10時46分

2 場 所 生駒市役所401・402会議室

3 審査事項

- (1) 報告第10号 平成29年度幼稚園・保育園訪問の結果について
- (2) 報告第11号 平成29年度学校訪問(中学校)の結果について
- (3) 議案第17号 平成29年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について

4 出席委員

教育長 中 田 好 昭

委員(教育長職務代理者)	山 本 吉 延	委員	飯 島 敏 文
委員	上 田 信 行	委員	寺 田 詩 子
委員	神 澤 創	委員	浦 林 直 子
委員	坪 井 美 佐	委員	レイノルズあい

5 事務局職員出席者

教育振興部長	峯 島 妙	生涯学習部長	西 野 敦
教育振興部次長	真 銅 宏	教育総務課長	辻 中 伸 弘
教育指導課長	吉 川 祐 一	学校給食センター所長	奥 田 茂
こども課長	前 川 好 啓	こども課指導主事	樋 田 良 恵
こども課指導主事	上 田 直 美	子育て支援総合センター所長	辻 本 多佳子
生涯学習課長	清 水 紀 子	図書館長	向 田 真理子
スポーツ振興課長	吉 岡 秀 高	教育総務課課長補佐	山 本 英 樹
教育指導課課長補佐	城 野 聖 一	こども課課長補佐	松 田 悟
生涯学習課課長補佐	梅 谷 信 行	スポーツ振興課課長補佐	西 政 仁
教育総務課(書記)	牧 井 望	教育総務課(書記)	鬼 頭 永 実

6 傍聴者 2名

午前9時31分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 会期・会議時間の決定

○日程第3 諸般報告

- ・7月の行事予定について、辻中教育総務課長、清水生涯学習課長から報告
- ・教職員の夏期研修について、吉川教育指導課長から報告

(質疑)

レイルズ委員：教職員対象の夏期研修は委員も参加可能か。

吉川課長：北コミュニティセンターなどで行う大規模なものについては、ホール等で実施するため、参加いただいて結構だが、少人数の研修の場合は、参加は難しい。見学は自由にさせていただいて結構である。

飯島委員：英会話研修は6人6コマで複数講座受講可ということだが、必ずしも一人複数回受講なさるというわけではないと思う。英語教育に関して、ALTの先生方と学校の教職員がコミュニケーションをとる機会が不足しているのではないかという指摘も出てきている。英会話研修という場を活用し、ALTの先生方と学校の教職員との交流を増やしていけば、学校における英語指導もより効果的なものにできると思うので、予算の許す限り開催してほしい。

浦林委員：茶道体験事業も見学可能か。

清水課長：事前に仰っていただければ学校に報告し、見学いただけるように準備する。

○日程第4 報告第10号 平成29年度幼稚園・保育園訪問の結果について

- ・平成29年度幼稚園・保育園訪問の結果について、前川こども課長から報告
- <参照：議案書p1～4>

(質疑) なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 報告第11号 平成29年度学校訪問（中学校）の結果について

- ・平成29年度学校訪問（中学校）の結果について、吉川教育指導課長から報告
- <参照：議案書p5～8、資料1>

(質疑) なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第6 議案第17号 平成29年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について

- ・平成29年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について、峯島教育振興部長から説明

<参照：議案書p9、別冊1、追加資料1・2>

(質疑)

飯島委員：各項目について、A～Cで評価しているが、B評価の項目の中にはなぜB評価になったのか分かりにくいものがあるので、より具体的に記載していただきたい。例えば、図書館の貸出冊数について、工事による1ヶ月の休館があったために貸出冊数が減ってしまったのか、休館を除いても例年と比べて貸出冊数が減っているのか、そのような点は現場で把握していると思うので、詳述していただきたい。また、「基本方針1 子育てを楽しめる地域づくり」の中のママサポーターに関する項目で、「周知が図られ、(中略)子育て支援に繋がった」と書いてあるのに、なぜB評価なのかを分かるように記述していただきたい。

これは要望だが、A評価になった取組に関しても、教育に関わることに完璧ということはないかと思う。A評価になったものについても、新たに見つかった発展的な課題などを書き加えればより密度の濃い報告書になると思うので、検討いただきたい。

峯島部長：工事のように年度内で完結してしまうようなものを除く事業等で、目標数値を掲げた取組に関して、目標を達成した後何を求めていくのか、というご意見かと思う。評価欄に新たな課題などを全て記載することは、ボリュームが膨大になるので、来年度以降のアクションプランのPDCAでフォローすればいいかと思うが、いかがか。

中田教育長：次年度のアクションプランの作成にあたって、今回の実績を踏まえて、数値化できる取組はもちろん、数値化できない取組についても、さらに上を目指した目標設定をし、来年度に反映していくということか。

峯島部長：そのとおりです。

山本委員：評価に関しては、アクションプランのPDCAサイクルに基づいて評価していくということで理解した。飯島委員のご指摘はPDCAというAの部分に当たるかと思う。今回の点検評価とPDCAのCとAの部分の関わりをどう考えているのか教えていただきたい。今回の点検評価は、PDCAサイクルのCと同一のものなのか。

峯島部長：アクションプランは、教育委員会が所管する全事業ではなく、今後、特に重要、かつ重点的に取り組んでいく取組を掲載したものである。今回の点検評価報告書については、アクションプランの事業を含む教育委員会の事務事業を網羅的に記載している。PDCAのC、すなわちチェックする時には、アクションプランに掲載されていなくても、教育委員会

にとって必要な事業ももちろんある。今回の点検評価の中で、教育委員から頂いた意見をもとに、より高みのある目標を掲げていければと思う。

山本委員：今回の点検評価報告書は、アクションプランで掲げた事業とアクションプランに掲げていない教育委員会としての事業とに分かれているのは理解できる。教育委員会としては、これまでの経緯からアクションプランで掲げた事業を中心に考えていくことになると思うが、その他事業についても、教育委員会としての事業であることから、業務上の責任があることには違いはない。工事であれば、事業の完了というものがあると思うが、例えば教員研修に関しては、実施したから完了ということはあり得ない訳であり、まさにチェックの後には次のアクションを考えていく必要がある。事業の種類によって質が違うと思うが、PDCAのアクションについては、教育大綱に関わる会議、すなわち総合教育会議の視点から考えればいいのか、それとも、教育委員会という立場、視点を持って今回の評価を見るのか、それによって違ってくる部分があると思う。その点に関しては、どのようにお考えか。

峯島部長：アクションプランはまた来年度に向けて作っていくものであるが、点検評価報告書に関しては一過性のものである。点検評価報告書の中に今後の対応・目標を加筆し、来年度につなげていくべきかは、検討したい。職員研修などのソフト事業などに対して書ける部分はあるはずなので、その点を探っていきたいと思う。

中田教育長：PDCAのAは、点検評価を踏まえて、次の行動計画になると思う。工事等の完了したと判断が付くものは来年度には消える。山本委員が指摘している教員研修などの完了することがない事業については、来年度以降も続いていく。ICTや英語教育などの研修に関して、取組をより深化させていくためには、どのような研修を実施し、どれだけの参加者があり、教員の関心をどれだけ高めることができたのかという成果を検証していかなければならない。成果が数値化できるものや数値化できないものがあると思うが、新たな課題は次のアクションプランに盛り込まれていかななくてはならない。この点検評価報告書を踏まえて、平成30年度のアクションプランを作成していくわけであり、これは一過性のもではなく、継続していくものであると思う。今回初めての試みだが、点検評価とアクションプランは継続していくものだという共通認識を持っておかねばならない。

山本委員：主旨は理解できた。飯島委員の指摘と重複するが、特にソフト事業に関しては、今年度A評価となったから終わりではなく、実施する中で新たに見出された課題や目標があり得るはずなので、次のステップに向けて記述の仕方を考えていただきたい。続いて、表現内容に数点気になる部分があった。まず、一番最初の教育長の言葉の3段落目、「施策及び事

業を基準として」という言葉についてだが、「基準として」の意味が解釈しかねるので、変更をお願いしたい。2点目は、2ページの3段階評価のABCで、目標管理的な基準を示しているのだと思うが、レベルを表す基準としてやや違和感を感じる。例えば、Aであれば、効果が得られたことが重要なのではなく、目標を達成したということが重要なはずである。とすれば、Aは、「取組完了、実施済み又は十分な効果が得られるなど目標を達成した」になり、同様にBは、「効果はあったが目標の達成には至っていない」又は「事業の効果が上がりつつあるが目標の達成には至っていない」となる。Cは、「未着手又は効果を上げておらず目標を達成していない」となる。ABCのレベルの一貫性を表現した方がいいと思うので、検討をお願いしたい。3点目は、3ページ2行目「目標が設定されていない事業等に関しては」という記載があり、これはアクションプランに掲載されていないその他事業を指しているのだらうとは思いますが、目標を設定されていないと言い切っているのかと思う。アクションプランに掲載されていないとはいえ、何か事業をする以上、ある程度何か目標はあると思うので、ここではアクションプランに掲載されていないものについても評価していくという意向を示しておけばいいのではないかと思う。4点目に、同ページの「4点検評価委員の意見」についてである。前回検討をお願いしたものについて、追加資料までご用意いただき有り難い。条文の修正案の中では、「生駒市教育委員会活動点検評価委員（以下「点検評価委員」という。）」とあり、それ以降の条文の中で略称を使うということはよくある。しかし、点検評価報告書の中では「点検評価委員」という略称を使うのではなく、正式名称である「生駒市教育委員会活動点検評価委員」と書くべきではないかと思う。最後に、4ページ「教育委員会の会議運営等」についてである。学校訪問の目的は参加ではなく、各学校に対する指導助言、各学校の状況把握がされたのかどうか実績・成果として上がるべきなのではないかと思う。単に学校訪問に行ったということを書いても目標達成といえるのか分からない。また、教育委員会の本来の権限である教育委員会規則の制定改廃、人事案件についての議決などが適切に行われたのかを記載すべきであり、このような表現では内容が薄いように感じるので、検討をお願いしたい。

飯島委員：10ページ2つ目の「幼稚園・保育所教員研修の実施」の評価について、「就学前教育環境の充実を図った」とあるが、教育環境の充実を図った結果、どうなったのか、どんな成果を得られたのかを記載する必要があるのではないか。同様の内容の箇所が複数見受けられるので、書き方を整えていただく必要があると感じた。表現内容の統一は、分かりやすく作っていただいたからこそ発見できた課題であって、分かりやすくなっ

た分、表現の粗も目立ちやすくなってしまうと思う。そのあたりを修正すれば、より整った報告書になると思う。

上田委員：両委員と重複するが、設定目標に対する評価について、もっと内容に踏み込んだものにしていく必要があると思う。PDCAサイクルは循環させていくことが重要であり、Cによる改善策、次のアクションに関する情報が記載されていなければならない。PDCAの特徴は、アクションの後にまたPのプランに還元していかねばならないという点である。そのことが読み取れる報告書にしていくことができればと思う。評価の中でチェックとアクションの両方が入っている項目とそうでない項目があるので、評価の欄を2つに分けるのはどうか。

峯島部長：今回は点検評価報告書の大きなリニューアルということで、このような形を提案させていただいたものである。各ページ末尾に「今後の活動方針」を記載している。評価欄の書き方に関するご指摘を頂いたが、他にも各委員からご意見があると思うので、今回の会議で報告書案を決定するのではなく、次回までに具体的なご意見を出していただきたい。また、来年度に向けてどのように取組を進めていくべきかといった内容で教育委員からコメントを頂いて、「今後の活動方針」を「今後の目標に向けて」などの形にかえて、次回までに備えるというのはいかがでしょうか。

中田教育長：設定目標がないものについては、評価が難しいと思う。設定目標がないものについて、どうしていくのかが今後の課題である。また、設定目標がないものについて、具体的な目標を個々に追加していくのは難しいように思う。設定目標がないものについては、来年度のアクションプランで出していければと思っていたが、事務局の説明にあったとおり、「今後の活動方針」の中で次につないでいく部分が入ってきてもいいとは思いう。いずれにしても、細部にまでわたるご意見を反映させていくためにも、次回の教育委員会までに整理させていただく必要がある。7月7日（金）までに事務局にご意見を提出いただきたい。次回はさらに精度を高めた形で、再度審議させていただくこととする。

審議結果 【継続審議】

○日程第7 その他

・市内中学校熱中症事故の保護者からのメッセージについて、吉川教育指導課長から説明

(質疑) なし

・平成29年度新規施策の取組状況について、吉川教育指導課長から説明

(質疑)

飯島委員：参考資料3のICT情報機器活用推進委員会について、このような委員

会を設置すると、各校のICT機器に精通した教職員を委嘱しがちになる。ICT普及への課題は、ICT機器を使いにくいと思っている教職員にとって使いやすい環境をいかに作るか、ということである。ICT機器の利用に長けた教職員を委嘱するにしても、ICT機器を使いたがらない教職員の意見を委員会に吸い上げ、どこが使いづらいのか、どうすれば使いやすくなるか、ということを話し合っていてもらいたい。

レイルズ委員:英語教育に関してこのような方々にお集まりいただき、活発に話し合い、他市の取組への理解を深めて生駒市に反映しようと活動されているということで、素晴らしいと思う。年度内でカリキュラム設定をしたい、副教材を作りたいといった目標設定をし、月一回という限られた時間で、うまく話し合ってくださっているものと思う。今後の英語教育に関して、ヒントを得やすい機会だと思うので、事務局を通して各校に素早く共有し、現場での実践につなげてもらいたい。

- ・平成29年度奈良県市町村教育委員会連合会研修大会の講師について、辻中教育総務課長から説明

(質疑) なし

- ・幼稚園・保育園教諭の採用について、前川こども課長から説明

(質疑) なし

○閉会宣告

午前10時46分 閉会